

会 議 録

1 会議名

令和2年度 第3回春日区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

① 地域活動支援事業の審査に係るプレゼンテーションについて

1) 本日の進め方の説明

2) プレゼンテーション

3 開催日時

令和2年6月21日（日）午後1時15分から午後5時25分まで

4 開催場所

上越市市民プラザ 第3会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：阿部一博、石田秀雄、板垣勝雄、市川 優、太田一巳（会長）、
岡本重孝、齊藤洋一、白濱昭博、田中裕子（副会長）、谷 健一、
藤田晴子、本多俊雄、松澤優作、丸山佳子、山田 孝、
吉田 実（副会長）、吉田義昭、鷺澤和省、渡邊康子、渡部忠行
（欠席なし）

・事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【藤井係長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【太田会長】

- ・挨拶

【藤井係長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【太田会長】

- ・会議録の確認：板垣委員に依頼

次第3 議題「(1) 協議事項」の「① 地域活動支援事業の審査に係るプレゼンテーションについて」の「1) 本日の進め方の説明」について事務局より説明願う。

【藤井係長】

- ・説明

【太田会長】

今ほどの説明に質疑を求める。

(発言なし)

以上で次第3 議題「(1) 協議事項」の「① 地域活動支援事業の審査に係るプレゼンテーションについて」の「1) 本日の進め方の説明」を終了する。

次に「2) プレゼンテーション」に入る。ここからの進行は事務局に一任し、再質問については自分が進行する。

－ 提案者入場 －

【春-2 提案者】

- ・「春-2 春日野いきいきサロン事業」についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

(質問 1：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問①) 今年度の提案書に記載する事業内容に、どのような影響があるか。実施の可否や中止が決定している事業等について聞きたい。

(回答) 今年度は4月からの事業予定を組んでいたが、4月から今月6月までの3か月間でみると、5月の会合が中止となった。それ以前の4月にも会合を予定していたが、地域活動支援事業の提案書を提出する前の段階で中止としている。4月は毎年、花見を行っているのだが、その花見を中止とした。6月からは活動を再開しているのだが、3密を避けるかたちで、今までとは若干やり方を変えて再開している。

また今後のことと言えば、地域活動支援事業の補助金が採択された場合、10月に柏

崎市高柳町のじよんのび村に行く予定としているが、施設のホームページを見ると、4月から現在までの2か月以上休館となっている。予定が10月であるため、それまでには営業再開していると考え提案書には記載しているが、現状としては未定である。遅くとも8月の初め頃には、どうするのかを決めたいと思っているが、万が一、施設の休館が長引いているようであれば、計画変更を願うことになると考えている。

(質問 2：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問②) 「収入額」及び「支出額」について、費目ごとの見通しを具体的に聞きたい。

(回答) 今ほど説明したとおり、5月の1回の会合が中止となったのみであるため、収支という意味では1,000円から2,000円程度のレベルで収入・収支ともに減少しているが、大きな影響はない。

(質問 3) 高柳地区を選んだ理由は何か。

(回答) 昨年度も高柳地区へ行くことを提案したが、昨年度は地域活動支援事業への提案が多く、ほかの団体と同様に補助金が減額となった。結果として、個人負担が高くなり過ぎるということで中止とした。昨年度はそのような経緯で中止としたため、今年度改めて提案している。また上越市から1時間程度時間がかかる場所であるため、移動にはバスを予定している。そのため70歳を過ぎた高齢者が大半であり、個人的に行くことは難しいと考え、こういう機会を使いバスを利用して行ければよいと団体の中でも話が出た。このような理由から、昨年度に引き続き提案した。

(質問 4) 町内会からの補助や自己負担はどれくらいあるか。

(回答) 町内会からの補助金は、いきいきサロンとしては3万円出ている。また自己負担については、それぞれの会合の際にはある程度の自己負担がある。今年度計画している高柳地区に行くことについては1人あたり3,000円程度の自己負担で何とか実現したいと思っている。自己負担の金額があまり高くないよう考えている。

(質問 5) 継続事業となっているが、参加状況を聞きたい。

(回答) 1回の参加人数は15人程度である。年間12回の活動であるため、単純計算では年間280人程度であり300人とまではいかないが、その程度の人数が1年間で参加している。活動は今年で9年目となる。

【太田会長】

今ほど、5点の質問についての回答があった。回答について、または関連質問等がある委員の発言を求める。

【鷺澤委員】

提案書には構成員 40 人と記載されている。しかし添付されている見積書を見ると、じよんのび村での食事代が 15 人分を予定している。つまり、マイクロバスについても 15 人分と理解してよいか。また、先ほどの説明にあった 280 人との数字は、いろいろなイベントの総参加者数であると思う。今年度の提案の主たる目的は、マイクロバスを利用して高柳地区に行くことだと思う。15 人との人数が基本的なベースなのか教えてほしい。

【春-2 提案者】

280 人との数字は、1 年間の延べ参加人数である。高柳地区に行く人数については、15 人、多くて 20 人程度の参加としてマイクロバスの見積りをとっている。

【太田会長】

他に質問等あるか。

(発言なし)

以上で春-2 を終了する。

－ 提案者退席、次の提案者入場 －

【春-3 提案者】

- ・「春-3 ジュニアバレーボールクラブの普及及び青少年健全育成事業」についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

(質問 1：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問①) 今年度の提案書に記載する事業内容に、どのような影響があるか。実施の可否や中止が決定している事業等について聞きたい。

(回答) 当初より新型コロナウイルス感染症の影響のため大会及び練習等々が完全自粛となっていたが、ようやく6月より練習を再開することができた。しかし「回数を減らしてください」「時間を短くしてください」と連盟から話があったため、活動は再開したが、例年どおりの活動が全然できていない状況である。また大会等については、全国大会が中止となり、それに連なる県大会・地区大会等もすべて中止となっている。そのため、活動費の積算内訳を提出しているが、前半の約半数が中止である。当チームは男子チーム、女子チームに分かれているが、男子チームについては今年度は大分調子がよいため、全国大会を目指すべく、昨年末より一生懸命練習に取り組ん

できた。それにも関わらず、大会等がほぼ中止になっている状況である。残念ではあるが、代わるような大会が開催されるとの噂も耳にしている。子どもたちのためにも、代わりとなるような大会が開かれるよう、自分もアピールしていきたいと思っている。練習試合等についても、現状としては6月いっぱいまでは自粛と言われている。だが、7月からは県内であれば練習会等の実施が可能とされている。現状としては、ほぼ活動ができていない状況であるが、7月以降は徐々に再開できると思っている。

(質問2：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問②) 「収入額」及び「支出額」について、費目ごとの見通しを具体的に聞きたい。

(回答) 現状では半分ほどの大会等の中止が決まっている。金額的にも、半分程度になってしまうと予想している。だが、先ほどの説明にもあったように、中止された大会に代わる大会やローカル大会等も含め、自分からもアピールし、何とか一生懸命に練習してきた子どもたちに練習の成果が出せる場を与えて欲しいと思うため、引き続きアピールしていきたい。

(質問3) 公式試合の交通費はどのように積算しているか。

(回答) 春日小学校を発着点として、各大会会場までの往復の距離を保護者の車代として考えている。保護者の車を利用して子どもたちの送迎をしており、車にもよるが平均して10当たり10kmから11km走行できるものとして毎年計算している。それに合わせて、ガソリン10を一応150円程度と考え計算しているが、ガソリンの高騰等によっては検討し対応していきたいと思っている。

(質問4) 個人の負担金を含めたクラブの収支はどうなっているか。

(回答) 個人負担は年間1万2,000円を各保護者より徴収している。昨年度の当団体としての収支繰越金は6万円となる。ただ、昨年末に実施しなかったイベント等もあるため、それを考えると繰越金は毎回ゼロとなっている。基本的には収支・支出ともに同額となっていることを理解いただきたい。

(質問5) メンバー構成(学校区、学年等)はどうなっているか。

(回答) 現在、男子が9人、女子が10人である。うち、男子は6年生が6人、5年生が3人である。女子は6年生が2人、5年生と4年生が各1人、3年生と2年生が各3人となっている。学区としては様々な小学校から参加し活動しており、春日小学校、直江津南小学校、東本町小学校、有田小学校、国府小学校の生徒がいる。

回答は以上になるが、自分より 1 点報告する。提案書の支出欄に活動備品として「④バレーボールネット」を計上している。メインの練習会場は春日小学校を利用しており 6 月第 2 週より練習を再開したが、小学校に行ったらバレーボールネットと支柱がすべて新品になっていた。そのため、提案書に計上したバレーボールネットの購入を取り下げたいと思っている。

【太田会長】

回答について、または関連質問等がある委員の発言を求める。

【田中副会長】

質問4の個人の負担金についての再質問である。年間費用が1万2,000円とあるが、いつ頃よりこの金額なのか。

【春-3 提案者】

会を立ち上げた当初よりの金額である。立ち上げは2007年である。

【田中副会長】

立ち上げた当初より金額は変わっていないのか。

【春-3 提案者】

当初、自分が代表になる前は1万円であったが、徐々に遠征費等が増えてきたこともあり1万2,000円に増額した。

【太田会長】

他に質問はあるか。

【吉田 義昭委員】

質問 4 についてである。子どもたちから 1 万 2,000 円の会費を徴収しているとの話であるが、提案書の収支の部には記載がない。質問 4 は、クラブチームの収支として、1 万 2,000 円の用途や、補助がどの程度あるかといった全体の数字を提示してほしいとの意味である。全体的な収支の説明があると、活動するためにどの程度の不足があるのか等、様々な部分が見えてくるため分かりやすいのではないかと考えている。

【春-3 提案者】

団体の全体の収支を提出したほうがよかったか。

【吉田 義昭委員】

そのほうが分かりよいと思っている。

【春-3 提案者】

手元に数字を持ち合わせているが、事細かに読み上げている時間がないため、事業費以外の部分の説明をする。当団体はいろいろな所の練習会に出向いている。例えば、呼んでくれたチームにお礼としてスポーツドリンクを渡すための購入費にも使用している。そのほか、現在指導者が6人おり、自分は連盟の役員であるため大会では弁当が支給されるが、役員ではない指導者には弁当の支給がないため、チームで指導者の弁当を購入している。また、宿泊を伴う大会もあり、子どものみで行くことはないため、引率してくれた保護者の補助等にも充てている。その他、バーベキュー等のイベントを行うこともあり、参加者より追加で費用も徴収するが、不足分に充てることもある。バレーボールだけではなかなか楽しくはできないこともあり、子どものつながりも考え、楽しいイベントを交えながら活動している。

【太田会長】

他に質問はあるか。

(発言なし)

以上で、春-3を終了する。

ー 提案者退席、次の提案者入場 ー

【春-4 提案者】

- ・「春-4 高齢者の健康づくり活動（まちづくり）と地域交流事業」についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

(質問 1：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問①) 今年度の提案書に記載する事業内容に、どのような影響があるか。実施の可否や中止が決定している事業等について聞きたい。

(回答) 自分たちの活動は、人が多く集まり活動することが原則である。今年度は、健康講話・体のバランス測定・ふれあいコンサートの中止が決定している。しかし、3密防止、手洗い・うがいを義務付けた上で、健康づくり教室のみは開催する予定であり、中止とした事業の分を健康づくり教室の開催に充てたいと思っている。

(質問2：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問②) 「収入額」及び「支出額」について、費目ごとの見通しを具体的に聞きたい。

(回答) 収支については、ふれあいコンサートの中止が決定しており、謝礼6万円、輸

送費 3 万円、活動費 4 万円の合計 13 万円は不要となる。次に、同じく中止が決定している体のバランス測定の謝礼 4 万円、健康講話の謝礼 2 万円も不要となる。だが、中止とした活動に代えて、健康づくり教室を 3 回増やす予定であり、健康づくり教室の追加分として、活動費 1 万 5,000 円、謝礼 1 万 5,000 円を追加している。

(質問 3) 事業が多岐にわたるが、春日野町内会との連携で予算の縮小はできないか。

(回答) 町内会は町内会としての役割があり、また使命もある。町内の行事としては、ウォーキングやソフトボール、綱引き、春日神社の祭典、謙信公祭、防災、子供会、寿会、敬老会等行事が非常に多く、自分たちの活動とは若干異なっている。自分たちは運動と地域づくりを目的として、これからも活動していきたいと思っている。

(質問 4) 「春-2 春日野いきいきサロン事業」と構成員が重複しているが、1 つの事業として実施することはできないか。

(回答) 昨年も同様の質問があった。活動の対象としている人に年齢差がある。当事業は「足も体も健康であり運動ができる人」、春日野いきいきサロンは「居場所や話し相手を求める人」と目的が違うため活動に差がある。そのため、一緒に活動することはできない。

【太田会長】

回答について、または関連質問等がある委員の発言を求める。

【鷺澤委員】

3 密の影響により中止としたイベントが大分あるようだが、概略でよいので支出の部でどの程度の減少があるのか教えてほしい。

【春-4 提案者】

一番人が集まるふれあいコンサートを含め中止としたすべての事業を合計すると、現時点では 19 万円ほどのマイナスとなる。一方で、健康体操だけはマイナスとなった分もプラスするかたちで実施したいと考えている。そのためマイナスとなった費目の金額を、健康体操の講師謝礼等に充てたいと考えている。講師謝礼・活動費が各 1 万 5,000 円、合計 3 万円を考えている。

【鷺澤委員】

概略で差し引きすると、どの程度金額が減少するのか。19 万円減少し、3 万円をプラスするということか。

【春-4 提案者】

そうである。

【鷺澤委員】

費目が変わるということか。

【春-4 提案者】

費目としては活動費と謝礼となる。中止をした分で健康体操を実施したいと考えている。ぜひ了承願いたい。

【太田会長】

ほかに関連した質問はあるか。

(発言なし)

以上で、春-4 を終了する。

－ 提案者退席、次の提案者入場 －

【春-5 提案者】

- ・「春-5 上杉軍出陣式維持保存事業」についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

(質問 1：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問①) 今年度の提案書に記載する事業内容に、どのような影響があるか。実施の可否や中止が決定している事業等について聞きたい。

(回答) 8 月の謙信公祭は中止となったが、当団体が神社の境内で行う武帝式は予定どおり行うつもりである。

(質問 2：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問②) 「収入額」及び「支出額」について、費目ごとの見通しを具体的に聞きたい。

(回答) ことごとく行事がつぶれているが、収入・支出については変更ない。今回提案しているものが購入できた場合、また次年度以降に活用していきたいと思っている。

(質問 3) 甲冑・衣装購入を今年度行う必要性は何か。また、今後の購入計画はあるか。

(回答) 武将を増やしたことにより甲冑が足らなくなったため購入を希望している。また、ナレーターは普段着で行っており、長い間協力してくれていることもあり新調したいと考えている。

(質問 4) 経年劣化を見据えてレンタル使用とすることはできないか。

(回答) レンタルについても、料金等を確認した。1 回につき、武将が 5 万 5,000 円、女武者が 2 万 7,500 円であった。金額や利用回数等を考えた場合、どう考えても購入

したほうが安価であると判断した。小さなイベントも含めると年6回から7回程度使用しており、その都度業者から送ってもらい、使用後に返却することほど無駄なことはないと思う。

(質問5) 上越市おもてなし武将隊との活動の違いを聞きたい。

(回答) 上越市おもてなし武将隊は仕事であり、自分たちはボランティアである。まずそこが違う。自分たちは支援事業等で補助してもらえなければ甲冑を購入することができず、何もできない。上越市おもてなし武将隊は、上越観光コンベンション協会ですりくりして購入することができる。

【太田会長】

回答について、または関連質問等がある委員の発言を求める。

【鷺澤委員】

質問3についてである。今年度の購入計画とその理由についての説明は理解できた。しかし、今後の購入計画については回答がなかったため回答願う。

【春-5 提案者】

地域活動支援事業の補助のおかげで、所有している備品の6割程が入れ替わった。今のところ、見た限りでは2年から3年は購入の心配はないと思っている。

【田中副会長】

昨年も1着購入しているため、現在の甲冑等の保存状態や保存方法がどのようなものか教えてほしい。

【春-5 提案者】

上越市埋蔵文化財センターの一角を借りて保存している。また、毎回決まった武将役をしている人もいるため、その人は自分が着用する衣装を自宅へ持ち帰って管理・保管している。

【太田会長】

他に質問はあるか。

(発言なし)

以上で、春-5を終了する。

— 提案者退席、次の提案者入場 —

【春-6 提案者】

・「春-6 春日区の交通安全のための交通安全推進活動並びに交差点関連路面標示修

繕事業」についてプレゼンテーション

・個別質問への回答

(質問 1：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問①) 今年度の提案書に記載する事業内容に、どのような影響があるか。実施の可否や中止が決定している事業等について聞きたい。

(質問 2：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問②) 「収入額」及び「支出額」について、費目ごとの見通しを具体的に聞きたい。

(質問 1 及び質問 2 の回答) 2つの質問ともに、補助事業に関して影響はない。

(質問 3) 今回提案されている事業は、地域活動支援事業がなければ実施できない事業か。

(回答) 各町内会から上がってきた要望に基づいて執行部で実地調査し、どうしても必要な場所についてのみ補助事業として提案したものである。実際の要望件数は、提案書記載の数の倍程度ある。補助金がなければ実施できないため、地区住民の安全確保が難しくなり、町内会から苦情が出ることになってしまう。

(質問 4) 例年 50 万円ほどの繰越しがあるが、活用することはできないか。年度初めに繰越金がないと会の運営に支障があるか。

(回答) 繰越金は毎年同じように繰り越さなければならないものであり、余剰金はない。当支部は春日地区 19 町内会からの拠出金で運営しているが、拠出金が入るまでの必要経費である。繰越金を使用すれば、翌年への繰越金がなくなるため各種事業ができなくなってしまう。これはどこの団体でも同様であると思う。

(質問 5) 道路標示の修繕について、県・市に要望した件数と実施された件数を聞きたい。

(質問 7) 提案された活動は本来は行政や関係団体が主体となってやるべきことと認識しているが、提案前に行政に依頼したか。本案件の行政の考え方や取組姿勢はどうなっているか。

(質問 5 及び質問 7 の回答) 質問 5 と質問 7 は関連した質問であるため、合わせて回答する。市役所の道路課、市民安全課、下水道建設課、上越警察署交通課を訪問し、担当者と面接し、説明・教示を依頼している。補助事業として提案した白線修繕については、昔は市で行っていたが、現在は行っていない。実際に町内会から市に修繕要望すると、市は町内会の予算で実施するか、地区の交通安全協会に相談するよう教示し

ている。新潟県は、職員の給与カットをしているように財政ひっ迫状態であり、白線の修繕予算も切り詰められ要望に応じられる予算はない。実際、様々な町内会より警察に要望が出されるが、予算不足から要望に応じられることはほとんどないとのことである。警察には、提案した停止線・止まれ文字・ダイヤモンド・横断歩道等、すべてを要望している。警察では、主要道路の横断歩道修繕を実施している。警察が実施するのは、山麓線の藤新田十字路交差点、上越教育大学入口十字路交差点、セブンイレブン大学前十字路交差点、春日小学校前南側道路 2 か所、加賀街道大豆地内の 1 か所である。横断歩道は費用が高額で、山麓線は 4 車線道路であるため、十字路交差点 1 か所 4 本を引いた場合 15 万円から 20 万円ほどかかる。地域活動支援事業に採択される事業に、特定の一部関係者のみの利益供与となる提案が多く見受けられる中、本件は交通安全協会春日支部や特定の個人が利益供与を受ける事業ではなく、春日地区全住民の利益と福祉につながる事業である。また、地域協議会は市長の附属機関であり、市長に直接意見を述べることができる機関である。白線修繕は春日地域の各町内会共通の課題となっているため、春日区の課題解決手段として白線修繕の予算を付けるよう、市長に意見を述べてほしいと思う。

(質問 6) 各種活動内容（活動人数、回数、場所）を具体的に聞きたい。

(回答) 春夏秋冬の交通安全運動でののぼり旗の設置・チラシ回覧、上部団体合同の交通事故防止・飲酒運転撲滅・園児の交通安全・七夕等のキャンペーン、学校や町内会等からの要望による交通安全教室・小学校児童への反射テープの贈呈・謙信公祭他地域イベントの交通指導・カーブミラーの設置や交通安全立て看板の設置及び取替え・消えかかった交差点関連白ペイントの修繕・要望対応・ジャンパー・ベスト・帽子等の補充等を各町内会代表理事 20 人と役員 7 人で手分けして実施している。毎年、地域活動支援事業については事業結果概要書を市に提出しており、そこに詳細が記載されている。委員には事務局より資料が配布されているので、再任委員は資料を確認願う。新任委員は中部まちづくりセンターにて確認願う。

【太田会長】

回答について、または関連質問等がある委員の発言を求める。

【本多委員】

公道というか、市道等でも交通安全協会春日支部の負担で白線等の修繕を行っていると思う。本来であれば、やはり警察、公安委員会が実施すべき内容であると思うが、

そこから要請を受けて実施しているのか、それとも交通安全協会春日支部で実施を判断して行っているのか。公安委員会とのやりとりがあれば教えてほしい。

【春-6 提案者】

警察が行うのは、公安委員会が関係する規制標示である。しかし先ほども説明したように、財政ひっ迫状態であり予算がほとんどないため、ほぼ 100%近く白線等が消えなければ、主要道路以外は実施していない。また、今年度よりダイヤモンド・止まれ文字は全て消えてしまっても修繕しないと決めたようである。そのため各町内会よりかなりの件数の要望が上がってくるのだが、実際には要望対応は全くしないとのことである。また、市が設置や修繕する停止線は指導線と言うが、市では昔は十字マーク・T字マーク・停止線を引いていた。しかし、いつからかは分からないが、やらなくなってしまった。現在、予算はゼロである。実際に要望もするが、市は町内会の予算で実施するか、地区の交通安全協会に相談するよう教示して終わってしまう。

【太田会長】

他に質問はあるか。

【板垣委員】

詳細にわたる説明に感謝する。各町内会から要望されても、しっかりと選択して決定しているとあったが、もっと広く、より多く取り入れることがここでの話し合いになるかと思う。その辺の流れ等がどのようになっているのか教えてほしい。

【春-6 提案者】

各町内会より 2 月末までに、設置場所に分かりやすく印を付けた地図を執行部へ提出するようお願いしている。その後、各町内会から提出された地図に基づいて、執行部が実際に現地に出向いて確認し、判断している。地域活動支援事業として実施する内容をすべてまとめ、市役所や警察と協議している。市では数年前より予算を組んでいないため、対応を行うことはなく、また警察も要望対応はほとんどない。先ほども説明したように、山麓線の十字路交差点の大豆の横断歩道、春日小学校南側道路の横断歩道 2 か所に関しては警察で修繕を実施するが、それ以外は行わない。

【鷺澤委員】

提案書の 5 ページに令和 2 年度の交差点関連の白線を修繕する町内会一覧がある。この中では、私道だけではなくて、市道あるいは県道等も含まれていて、その結果、修繕できなくなったと理解してよいか。例えば「止まれ」については、漢字で書く場

合は警察の許可が必要となる。しかし、ひらがなで「とまれ」とカタカナで「トマレ」の場合には、交通安全協会での実施が可能だと思う。

【春-6 提案者】

漢字での「止まれ」は公安委員会の許可が必要であり、本来は警察が実施すべき案件である。しかし今年度より、県の財政が好転するまでは実施しないとしている。実際には財政が好転することは当分見込めないため、今後実施することはないと考えている。また、カタカナの「トマレ」は過去に市で実施したものであり、今回町内会より要望があり実施を予定している箇所もある。

【太田会長】

他に質問はあるか。

【吉田 義昭委員】

今回初めて話を聞き、仕組みが分かり勉強になった。確認であるが、補助を希望している地域活動支援事業費はすべて路面標示等に充てるための事業費なのか。交通安全協会はいろいろな業務を行っており、安全に努めていると思う。またいろいろな活動をしていることも承知しているのだが、そういった活動の経費は町内会や住民等の拠出金が原資なのか。

【春-6 提案者】

提案書を見てもらえれば理解していただけると思うが、今回提案している金額については、白線修繕のみの金額となっている。昨年、藤巻町内にカーブミラー、春日山町1丁目に立て看板を3本設置しているが、これは各町内会からの拠出金で設置している。基本的には、町内に設置するミラーや看板等はその町内会からの拠出金を利用している。

【太田会長】

他に質問はあるか。

(発言なし)

以上で、春-6 を終了する。

－ 提案者退席、次の提案者入場 －

【春-7 提案者】

- ・「春-7 春日区幼年野球育成事業」についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

(質問 1：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問①) 今年度の提案書に記載する事業内容に、どのような影響があるか。実施の可否や中止が決定している事業等について聞きたい。

(回答) 2月27日に新型コロナウイルスの感染拡大が国内で本格化したことを受け休校措置が発表された。2月29日に上越市学童野球連盟、3月7日に三井企画旗の懇親会が予定され、懇親会自体は開催されたが、当チームとしては感染することへの不安から出席をキャンセルした。その後3月から5月までの間、スポーツ団体の活動自粛との通達を受け、高志ビクトリーズも完全に活動を中止していた。その間に予定していた三井企画旗・やちよマリンカップ・日本製鉄旗・上越タイムス旗・読売旗の5大会が中止となった。6月より、ようやく練習活動が再開している。7月より練習試合も解禁となる。また9月からは学童野球連盟の大会も実施予定となっているため、参加する予定としている。

(質問 2：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問②) 「収入額」及び「支出額」について、費目ごとの見通しを具体的に聞きたい。

(回答) 収支の減額等については、中止となった5大会への参加費が各3,000円であるため、5大会で合計1万5,000円、自主的にキャンセルした2件の懇親会の会費の1万8,000円が減額となった。しかし、新型コロナウイルス感染症防止対策として非接触型の体温計と20ℓのアルコール製剤を用意した。また手指消毒液や使い捨て手袋等も購入したため、約3万円の支出となっている。金額的な結果としてはさほど増減はない状態である。

(質問 3) AEDは安全のため必要と思うが、学校のものを利用できないか。他のチームはどのようにしているか。

(回答) 1月26日に高志小学校の体育館にて、上越南消防署より救命救急講習会を受けた。当チームとともに春日地区の春日野デュークスも招き、選手・保護者全員で心肺蘇生法とAEDの使用方法を習った。その中で、1分1秒でも早い心肺蘇生はもちろん重要であるが、同様にAEDによる電気ショックも非常に大切なものであること、AEDを含めた心肺蘇生は1分遅れることにより約10%の救命率が低下することを教わった。他チームがどのようにしているのかは把握していないが、AEDを一緒に持っていくくらいの姿勢が必要だと教わった。小さな子どもたちの大切な命を預かる者としては、自チームで備えておく必要があると思っている。

(質問 4) 自主催大会は参加費を徴収して運営できないか。

(回答) 大会を発足してから参加チームより 3,000 円の大会参加費を徴収している。ただ、グラウンド使用料、飲み物代、表彰用品等を購入すると毎年不足金が出ており、不足金はチームの予算で賄っている状況である。6 年生最後の記念大会には、なるべく多くの 6 年生を表彰してあげたいと思っている。昨年より地域活動支援事業の補助金にて表彰用品等を購入しているが、これまでは高志ビクトリーズが各大会で上位入賞した賞のレプリカトロフィーの札を張り替えて贈呈していた。言い方は悪いが、みすぼらしい中古のトロフィーを使用しており、あまり子どもたちからも喜ばれなかったのだが、昨年より新品のすばらしいトロフィーを贈呈することができているため、大変助かっている。今後、地域活動支援事業からの補助金で表彰用品を提供することができるのであれば、大会要項に書き込み、また報道機関にもそのように宣伝していくつもりでいる。

(質問 5) 昨年は 100 万円超の収支決算であったようだが、5 ページの収支計画が令和 2 年の貴団体の収支のすべてか。

(回答) 提案書 5 ページの収支計画が令和 2 年度の当チームの収支がすべてである。地域活動支援事業費を含まない自主財源は例年 30 万円から 40 万円で活動している。昨年は補助金を 75 万 7,000 円受けている。

(質問 6) 昨年の購入備品はどのようなものか。昨年の提案との金額の差異を聞きたい。また、会費の増額は考えられないか。

(回答) 昨年の購入備品については、ボール・キャッチャー道具・アイシング道具・ヘルメット・試合用帽子・ユニフォームシャツ・背番号・バックネット・コートブラシ・審判用具・スコアブック・ライン石灰・オーダー用紙、その他自主大会の表彰用品である。逆に質問であるが、金額の差異を聞きたいとのことであるが、この差異とはどこの差異のことを聞いているのか。備品については、昨年新品を購入しているため、今年度は同様の備品を改めて購入する予定はない。今年度は足りない備品のみ、金額をさほどかさませずに購入できればと思っている。

(質問 7) 少子化の中今後の選手の加入予想、活動計画を聞きたい。

(回答) 自分は上越市の学童野球連盟監督会の副会長に就いている。連盟での話し合いの中で、少子化については、現在 32 チームあるところを 12 チームまで減らして 1 チームあたりの部員数を多くし、低学年・中学年・高学年等にクラス分けをして、子

どもたちの習熟度や体力面、技術面に沿った指導や大会開催を検討している。低学年にはティーボールという簡単な野球遊びのようなかたちの中で野球の楽しさを味わってもらい、中学年には本来の塁間のサイズより 2 メートルほど縮めたサイズで体等に負担がかからないようなかたちを考えている。現在、野球肘等が問題視されているため、体に負担がかからぬよう、本格的な野球と異なるが、それに近いかたちで野球を覚えてもらう。高学年に関してはハイレベルな練習や大会出場を行い、トータル的に野球の楽しさや魅力を子どもたちに感じてもらう、またメディアを通じて、幅広く広報し、野球人口の増加を図っていきたいと思っている。

【太田会長】

回答について、または関連質問等がある委員の発言を求める。

(発言なし)

自分から 2 点質問である。まず質問 3 で「AED は学校のものを利用できないか」と質問しているため回答願う。

【春-7 提案者】

先ほども説明したように、1 分 1 秒でも早い心肺蘇生をと考えている。確かに学校の体育館には AED があるが、当チームが活動しているのは学校のグラウンドがメインであり、朝早くから活動することもある。学校の体育館は朝 8 時からの使用となり、それ以前に活動している時間帯での対応は不可能ということになる。また学校以外の他の球場を使用した場合には、AED があるのか、またあったとしてもどこに設置されているのかも分からない。むしろほとんど設置されていない状況である。

【太田会長】

もう 1 点。先ほど、上越市の学童野球連盟監督会の副会長をしているとの説明があったが、他チームの監督たちと AED についての話は出たことはないのか。

【春-7 提案者】

監督会の中では特に発信等はしたことはない。今回、講習を受けた中で改めて必要性を教えられた。本来であれば、やはり全チーム持っていたほうが間違いはないと思うが、今のところは全チームに対しての発信等は行っていない。1~2 チームに聞いた中では、やはり学校に設置されているものを活用との回答があった。しかし使用できない場合があるため、絶対に必要なものだと思っている。

【太田会長】

次に質問 6 の最後の「会費の増額は考えられないか」についての回答がなかったかと思うため、回答願う。

【春-7 提案者】

会費に関しては、どこも同じであるが保護者の負担となり、また現在、なかなか部員が入ってこない状況の中で会費を増額してしまうと、それも 1 つのハードルとなってしまうと思う。そのため、現在の 1 万 5,000 円が限度ではないかと思っている。

【太田会長】

他に質問はあるか。

【石田委員】

質問 3 についてである。確認であるが、AED を購入した場合、どの程度の金額がかかるのか。調べていれば教えてほしい。

【春-7 提案者】

購入した場合、メンテナンスが効かなくなってしまうため購入は検討しなかった。リースであれば定期的に電気パットが送られてきて、状況や年数に応じて新しい物に交換してもらえる。そのためリース契約を選択した。

【石田委員】

自分が仕事をしていた時に AED を購入した記憶がある。例えば遠征が多くあり、1 年で 6 万 4,000 円のレンタル代がかかるが、5 年所有することを考えるのであれば、業者とメンテナンス契約を結んで購入したほうが安価で済むように感じたため、質問した。購入金額や保証等を調査していないのであれば結構である。

【太田会長】

申請としてはリースで出ており、委員の意見を出す場ではない。他に質問はあるか。

(発言なし)

以上で、春-7 を終了する。

－ 提案者退席、次の提案者入場 －

【春-9 提案者】

- ・「春-9 高齢者の生きがいづくりと地域交流事業」についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

(質問 1：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問①) 今年度の提案書に記載する事業内容に、どのような影響があるか。実施の可否や中止が決定

している事業等について聞きたい。

(回答) 通常使用している列車は立ち席を含め100人乗車でき、座り席は40席である。

しかし新型コロナウイルス感染防止のため、定員を20人として3密を防止したいと思っている。また参加者には全員にフェイスシールドを着用してもらおう。さらに、えちごトキめき鉄道でも、空気中の除菌ができる薬品を散布し車内に菌が舞い上がらないよう対応し、窓も常に開けた状態で空気を循環する予定でいる。

(質問2: 新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問②) 「収入額」及び「支出額」について、費目ごとの見通しを具体的に聞きたい。

(回答) 金額が増減するという事はない。演奏者はそのままであり謝礼に変更はない。

(質問3) 参加費の有無を聞きたい。

(回答) 参加費は徴収している。食事代として3,300円である。休憩時の施設は入浴でき、大広間でくつろぐこともできる。通常1か所の大広間を使用しているが、今回は2か所の大広間を予定している。通常の参加費は3,300円だが、フェイスシールドと楽譜の準備で、1人当たり4,000円で考えている。

(質問4) 高齢者のいきがいくりのために歌声列車を選んだ理由を聞きたい。また、年2回行う理由を聞きたい。

(回答) 北陸新幹線開業と同時にえちごトキめき鉄道が開業し、トキめき鉄道を皆さんと一緒に楽しもう、またトキめき鉄道が浸透したらよいとの思いがあった。また、毎月第2火曜日に春日謙信交流館で歌声喫茶を行っているが、その際、必ずではないが毎回60人くらいの参加がある。コーラスを教わるわけではなく、ただ歌いに来る人が多く、参加する・しないの連絡、告知もいない会である。このような会を開催する中で、たくさんの参加者が来ると思い、歌声列車を思いついた。また、年に2回開催する理由としては、本来定員40人で開催しているが、新型コロナウイルスの影響により定員を1回20人としているため、2回開催しなければ参加を希望している人数をこなせないためである。毎年、わくわくと楽しみに開催を待っている人がたくさんいる。今回の新型コロナウイルスでいろいろなことに参加できなくなってしまい、脳梗塞になってしまった人も何人かいた。そのため、わくわくする気持ちや外に出ることが非常に大事な事だと感じている。

(質問5) 数年続いている事業だが参加者数の変化や特色、PR方法について聞きたい。

(回答) 歌声喫茶への参加者にもチラシを配布している。

【太田会長】

回答について、または関連質問等がある委員の発言を求める。

(発言なし)

以上で、春-9 を終了する。

－ 提案者退席、次の提案者入場 －

【春-11 提案者】

- ・「春-11 安全に安心して暮らせるまちづくり事業（防犯パトロール実施事業）」についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

(質問 1：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問①) 今年度の提案書に記載する事業内容に、どのような影響があるか。実施の可否や中止が決定している事業等について聞きたい。

(回答) 新型コロナウイルス感染症対策として3密を避けるために、防犯パトロール事業の主要な柱であるパトロールを4月から5月まで休止した。5月25日に国の緊急事態宣言が解除されたことを受け、6月1日より上越市のイベント等の開催の取扱いなどを参考にパトロールを再開したところである。

(質問 2：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問②) 「収入額」及び「支出額」について、費目ごとの見通しを具体的に聞きたい。

(回答) 先ほど説明したように、パトロールを少し遅れて6月1日より再開したところである。遅れたとはいえ、支援を希望した支出額には変わりはない。

(質問 3) 購入備品の在庫数を町内別に聞きたい。

(回答) 防犯ベストについては、春日山町1・2・3丁目で各2着ずつ、合計6着所有している。帽子についても各2個所有しているため、同じく合計6個ある。のぼり旗については、1丁目が40本、2丁目が20本、3丁目が50本、合計110本である。その他、誘導灯や拍子木、ライト等があるが、各町内会共に1個から2個の予備があるとのことである。

(質問 4) のぼり旗、帽子は追加か。更新か。

(回答) のぼり旗は更新である。のぼり旗は毎年、4月から11月下旬まで屋外で掲揚している。そのため日光や雨、風により変色し破れることもある。竿についても腐食し

折れることもある。従って、年間に2回ほど取り換えることもある。大体年1回の交換であるが状況によっては2回交換することもある。次に帽子については、各町内の新規加入者のための新規購入である。春日山町2丁目については、今年度22班あるが、全班で隊員を拡大する予定である。これに伴って2丁目は提案書記載の数が出てきている。パトロール事業が拡大することになるため配慮願いたい。

(質問5) 当該地域を定期的に巡回しているが、のぼり旗を設置している家庭等が過去の地域活動支援事業の実績の本数より少ないように感じる。実情と今後の対応について聞きたい。

(回答) のぼり旗については、1丁目は66か所、2丁目は25か所、3丁目は61か所で、合計152か所で掲揚している。3丁目の場合、のぼり旗の設置場所は主要な市道・公園のほか、パトロール隊のまとめ役を担当する各班長宅にお願いしている。掲揚期間は、市道については市の許可が必要であるため、許可が得られた4月25日以降の連休前後に公園を含めた約30本を掲揚した。新型コロナウイルス感染対策により会議をなかなか開催することができなかつたため、各班長宅への掲揚はなかなか徹底できなかったが、先日確認したところ、23ある全班長宅に掲揚されていた。

(質問6) 助成申請して実施する目的と地域社会への貢献等のPRポイントがあれば聞きたい。

(回答) この事業は平成22年から春日山町3丁目で始めた事業である。その後平成26年には1丁目、2丁目に拡大し、現在3町内合わせて一般世帯の数で1,250戸の範囲に及ぶパトロール事業に成長した。この間、当初各町内で多発していた空き巣被害等がなくなったこと、自分の町は自分で守るとのボランティア精神が育ったこと、会員間のコミュニケーションが深まったことなどが成果として挙げられる。地域活動支援事業に申請して事業を実施する理由としては、防犯ベストや帽子は追加する必要があり、のぼり旗は毎年更新しなければならない。その費用が各町内の一般経費を圧迫することから、助成をお願いしている。

(質問7) 春日地区の防犯協会からの助成はないのか。

(回答) 春日地区の防犯協会は市の防犯協会の下部組織であり、予算が総額15万円しかない。うち事業費は7万円であり、防犯マップ作成事業等に充てられているようである。ここに助成をお願いすることは無理があると考えている。

【太田会長】

回答について、または関連質問等がある委員の発言を求める。

【本多委員】

以前に自分が受けた説明の聞き違いでなければ、町内全員が参加してパトロールしているとの報告があったように記憶している。今ほど「隊員を新たに追加する」との説明であったが、この辺の状況や変更について教えてほしい。事業内容としては大変すばらしい活動であり、安全安心のまちづくりのために活動していると思う。

【春-11 提案者】

春日山町3丁目については、平成22年当初より全戸が参加している。その活動に1丁目と2丁目に加わったのだが、1丁目は役員を中心として活動しているとのことである。また2丁目は防犯パトロール隊というグループを作って活動しているようである。先ほども説明したが、2丁目も今年度より全班での活動に変更するとのことであるが詳細までは把握していない。そのように、活動が拡大してきているところである。

【太田会長】

他に質問はあるか。

(発言なし)

以上で、春-11を終了する。

－ 提案者退席、次の提案者入場 －

【春-12 提案者】

- ・「春-12 春日山城跡環境整備（桑取街道整備と大井戸清掃）事業」についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

(質問 1：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問①) 今年度の提案書に記載する事業内容に、どのような影響があるか。実施の可否や中止が決定している事業等について聞きたい。

(回答) 今回、提案している事業内容については、すべて6月から7月以降の事業であるため計画に支障はない。ただ団体の活動としては、4月の雪解けと同時に環境整備作業を開始することとしているが、これについては4月から6月分をすべて中止としており、今後が大変だと思っている。

(質問 2：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問②) 「収入額」及び「支出額」について、費目ごとの見通しを具体的に聞きたい。

(回答) 質問1と同様であり、特に問題はない。会運営については、会員の協賛金で行っている。自己資金での実施事業については、問題なく進められると思っている。

(質問 3) 案内看板設置費用が多額に感じるが、立てる場所など枚数は適正と考えているか。

(回答) 案内看板については、従前からあった物を更新する物がほとんどであるが、コースの中には上正善寺集落の農地との兼ね合いもあり、いわゆる昔の赤道との交差があるため、初めての場場合迷う箇所がある。そのため、希望している数を減らすことは難しいと思っている。場合によっては増やしてもよいと思っている。また柿崎屋敷から城ヶ峰砦までは1時間半ほどのコースであり、慣れている人であれば迷うことはないと思うが、初めての人にとっては難しいように思っている。

(質問 4) 井戸の調査等は、行政と打合せをして行政の予算でできないか。

(回答) この件については、市の文化行政課と話をした。井戸の管理について、城跡全体の管理も同様であるが、訪れる人のためと春日山という史跡を維持するための予算は持っているが、中を調査するつもりはないということであった。結論として、市は予算は持たないということである。また、地元住民や関係者が井戸の周りの草刈や、中に入った倒木を引き上げる作業を過去にもやってきているということである。従って、市では一切行わないということである。

(質問 5) 春日山城跡の環境整備事業等で、現在、国・県の財政的な支援はどれくらいあるか。

(回答) 全くない。

(質問 6) 今まで整備された古道の全体図を分かりやすく示してほしい。

(回答) これについては、事前に資料を用意し配布している。色の塗ってあるところが5か所ある。直近では、左上にある丸印の柿崎屋敷は、去年も周囲の環境整備を行った。これまでに環境整備を行った箇所で今回の提案に含まれているところは、桑取道の古道の周囲である。またこの中で1番下のグリーンで書いてある所、いわゆる「総構え」の部分については、春日保育園の園児の散歩道となっている。

(質問 7) 今後の活動の展望を聞きたい。

(回答) 会発足より足かけ12年となる。基本的には地域の町内会長協議会がベースとなっている。ただ、これまでの経緯を受けて、持続可能な活動を今後も行っていくと考えたときに、少し見直しが必要だと思い、今回役員が改選され執行部が代わったた

め、検討を進めている。具体的には行政の窓口である文化行政課、観光交流推進課、そして上越観光コンベンション協会と、史跡の管理と観光のあり方、そしてこの地域で生活する地域住民の生活との関係、これらの観点により地域住民が行政とどうタイアップしていくのかについて話し合いを始めているところである。そこで生活している住宅、また農地を持っている人もたくさんいるため、いわゆる他人事ではないとの観点で地域や住民が春日山にどう関わるのかをもう一度考えていきたいと考えている。関係する各町内会長には、これについてフィードバックしようと思っているところである。

【太田会長】

回答について、または関連質問等がある委員の発言を求める。

【鷺澤委員】

質問 5 の回答で、国や県からの財政的な支援はまったくないと回答であったが、毎年提案書には、春日山城跡の史跡公園化を活動の主眼として県・国等に要請していると記載していると思う。その計画の動きについては、現在どのようになっているのか教えてほしい。

【春-12 提案者】

春日山城跡は、ご存知のように、昭和 10 年に文化財の史跡に指定されている。これを公園化なり、管理体制を変更する際には、新潟県文化財審議会のお墨付きがなければ、いろいろな活動ができない。市の春日山城跡保存管理計画という計画があり、そこがすべての元になっている。結論からいうと、上越市が史跡公園として取り組んでいこうとの姿勢がなければだめであり、原因の 1 つには、文化庁が首を縦に振らないことがある。また、上越市の文化財保護に関わっている方が何人かいるのだが、その方々と意見交換をした際には、実はハードルがいくつかあるということをすでに言われている。そのハードルを越えるためにも、先ほど話した文化行政課、観光交流推進課、上越観光コンベンション協会と話をすり合わせておかなければ、いきなり持って行っても駄目だといわれている。その辺については、現在勉強中である。

【太田会長】

他に質問はあるか。

(発言なし)

以上で、春-12 を終了する。

－ 提案者退席、休憩（15分） －

【藤井係長】

プレゼンテーションの進行について補足説明する。春-8の藤新田町内会から提案があった「藤新田町内会活性化事業」については、今年度は新型コロナウイルス感染症の流行拡大の影響により事業実施の見通しが立たないとの理由から取下げの申し出があった。同様に、春-17の大学南町内会からの提案である「大学南町内会行事支援事業」についても、同じ理由で取下げの申し出があった。なお、春-12の春日小学校後援会はプレゼンテーションに参加できないと案内したが、都合がついたため本日のプレゼンテーションに参加いただく。それでは、プレゼンテーションを再開する。

－ 次の提案者入場 －

【春-13 提案者】

- ・「春-13 中門前1丁目地区包括災害支援対策事業」についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

(質問 1：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問①) 今年度の提案書に記載する事業内容に、どのような影響があるか。実施の可否や中止が決定している事業等について聞きたい。

(回答) 4月、7月、11月にクリーン作戦を行い、その際に防災器具の点検を予定していた。しかし今年度については、そういった事業に関しては役員会にてすべて中止することが決定した。

(質問 2：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問②) 「収入額」及び「支出額」について、費目ごとの見通しを具体的に聞きたい。

(回答) これについても共通質問①と同様である。

(質問 3) 平成27年度に防災備品の購入があったが、その後、訓練等でどのように活用されたのか聞きたい。

(回答) 中門前町内全体で、一度だけ訓練を実施した記憶はある。今回は1丁目のみである。1丁目町内会独自で消防署の職員を2人依頼し、令和元年10月14日に秋葉荘にて、35人が参加して応急手当の訓練を行った。

(質問 4) 中門前1丁目災害活動支援隊の活動の対象となるエリアは、住居表示上の中門前1丁目の範囲と同じか。異なる場合は、地図で対象エリアを示してほしい。

(回答) 中門前1丁目災害活動支援隊の活動対象エリアは、住居表示の中門前1丁目だ

けに限っている。

(質問 5) 町内会で自主防災組織を設置済みであれば、関係性を聞きたい。

(回答) 1 丁目としては災害支援隊規約を作成してあるのだが、活動しなければならぬような事態は発生していない。そのため、実際の活動には至っていない。

(質問 6) 中門前 2 丁目と分けて申請する理由は何か。

(回答) 中門前は 1 丁目・2 丁目・3 丁目と町名が分かれており、町内会としては一つであるが、それぞれに予算を持ち活動している。だが、何かあった場合には町内会長の判断にて 3 町内が合同で活動することとしている。

【太田会長】

回答について、または関連質問等がある委員の発言を求める。

【本多委員】

質問 5 の自主防災組織について質問である。自分は中門前は 1～3 丁目で 1 つの町内であると思っていた。だが 1 丁目・2 丁目・3 丁目で会計はすべて別であるということに驚いている。実際に災害が起きた際には 1 つの町内であってもまとめることが大変だと思うのだが、組織や活動が別で対応できるのか疑問である。先ほどの説明ではそれぞれ独自で動くとのことであったが、やはり防災活動は本当に難しいことだと思う。防災グッズは所有していることが当然であり必要である。昨今は全国的に多くの災害が起きている。そのため、しっかり取り組まなければならない問題である。1 丁目から 3 丁目に分かれて活動しなければならない理由があるのであれば、理由を教えてください。

【春-13 提案者】

中門前全体では、現在約 500 戸近い世帯がある。1 丁目は林泉寺周辺の昔からある中門前であり、昔は 24 戸しかなかったが、現在は 50 戸ほどに増えている。1 丁目と 2 丁目の関係についての質問だと思うが、2 丁目になると山に向かう場所になるため離れている。また 1 丁目では毎月 1 回集会を開いており、毎月顔を合わせている。おかしいと思う人もいるかもしれないが、その集会の場で必ず町内会費等の集金をしている。町内会館が古くなったため新しく建て替えし、その集金が必要なこともあり、毎月 1 回集金を兼ねて集会を行っている。そのため、中門前 1 丁目の住民は全員、どこの家に誰がいるのか、皆分かっている。しかし 2 丁目、3 丁目は同じ町内同士であっても、分からない住民も多いと思う。1 丁目は日頃からそのようなつながりがあ

るが、他の町内に入ってもなかなか分からない。また、中門前1丁目にいると、春日町内や谷愛宕町内の住民とは大体顔見知りである。その点でもよいと思っている。

【太田会長】

他に質問はあるか。

(発言なし)

以上で、春-13を終了する。

－ 提案者退席、次の提案者入場 －

【春-14 提案者】

- ・「春-14 中門前2丁目自主防災サポーターズ事業」についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

(質問 1：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問①) 今年度の提案書に記載する事業内容に、どのような影響があるか。実施の可否や中止が決定している事業等について聞きたい。

(回答) 8月の納涼会の際に、防災用品の紹介と使用体験会を行う予定だったが、納涼会自体が中止となったため防災訓練時に合わせて行うこととした。また防災訓練の日程は、9月から11月に延期することを現在検討中である。

(質問 2：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問②) 「収入額」及び「支出額」について、費目ごとの見通しを具体的に聞きたい。

(回答) 新型コロナウイルス感染症の関係では、収支に影響はない。

(質問 3) 町内会の経費で実施しないで、地域活動支援事業に助成申請して実施する目的は何か。

(回答) 中門前町内会で揃えた物品は未だ不十分であり、世帯数の一番多い2丁目として防災に必要な物品を揃え自主防災力を高める必要があるからである。

(質問 4) 中門前町内会として合意、コンセンサスを得ているか。

(回答) 中門前町内会とは、町内会長をはじめとする役員に了解を得ている。

(質問 5) 中門前2丁目自主防災サポーターズの活動の対象となるエリアは、住居表示上の中門前2丁目の範囲と同じか。異なる場合は、地図で対象エリアを示してほしい。

(回答) 中門前2丁目自主防災サポーターズ活動の対象エリアは、住宅用地等の範囲と同じである。

(質問 6) 中門前町内会の防災組織について聞きたい。

(回答) 中門前町内会の防災組織は町内会長を本部長とし、避難誘導係、警備係、通達連絡係、救護係があり、それぞれの係に1丁目から3丁目の副町内会長、各区長、副区長を配置して組織している。

【太田会長】

回答について、または関連質問等がある委員の発言を求める。

【谷委員】

備品の保管場所はどこを考えているのか。

【春-14 提案者】

中門前こどもの家の外にある倉庫に保管する予定である。

【太田会長】

他に質問はあるか。

【鷺澤委員】

中門前は全世帯で500戸ほどあり、3つに分かれて防災活動を行っているとの話があった。自分は木田町内に住んでおり、1,600世帯ほどある大きな地域である。木田では防災活動は統一して防災用品の要求や、市から防災倉庫の支援があったと聞いている。避難訓練等も町内全体で統一して行っている。中門前町内会は1丁目から3丁目まであり、統括・共通した規約や組織があるにも関わらず、防災用品等を町内として地域活動支援事業に提案するなら理解できるのだが、丁目ごとに提案していることが理解できない。もう少し詳しい理由等があれば教えてほしい。

【春-14 提案者】

町内会ができたときより1丁目・2丁目・3丁目と分かれていた。その中で最初に1丁目が組織を作り、それに倣った感じになっている。また地形的なことと言えば、山を抱えており、2丁目は高い所に立地している。避難をする際に、やはりそれぞれのところで活動していくことが効率的であるとの理由から、このようになっていると聞いている。

【太田会長】

ほかに質問はあるか。

【本多委員】

今ほどの質問に関連するが、先ほど1丁目の方からも説明があったが、同じ町内であるにも関わらず別々に活動することが理解できない。町内会にすばらしい組織があ

るにも関わらず、各丁目ごとに別々に活動することは、果たして災害時等に本当に機能するのか疑問である。立地条件等の問題があるとの話であるが、それをまとめることが町内会という組織であると思う。やはり町内会でまとめて活動したほうがよい。自助・共助は大事である。

【太田会長】

その発言は意見になるため、質問を願う。意見は受け付けていない。他に質問はあるか。

(発言なし)

以上で、春-14 を終了する。

－ 提案者退席、次の提案者入場 －

【春-15 提案者】

- ・「春-15 小学生の金管楽器演奏による地域の絆づくり支援事業」についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

(質問 1：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問①) 今年度の提案書に記載する事業内容に、どのような影響があるか。実施の可否や中止が決定している事業等について聞きたい。

(回答) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響で謙信公祭・音楽フェスティバル・スポーツフェスティバルでの演奏は中止が決定している。しかし、2 学期に予定している校内音楽フェスティバルでの金管演奏は実施する予定である。今年度は、多くの学校行事や活動が中止や延期、また見直しを迫られた。そんな中、今月より 6 年生の金管活動を行うことができおり、子どもたちは練習に取り組んでいる。

(質問 2：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問②) 「収入額」及び「支出額」について、費目ごとの見通しを具体的に聞きたい。

(回答) 当校後援会では、地域支援事業による補助金をバス代等に充てるわけではない。すべて楽器の購入に充てているため、新型コロナウイルス感染症の影響で、収入支出が変わることはない。

(質問3) 市費や後援会費での購入状況を聞きたい。

(回答) 今年度、市費と後援会費での補充予定はない。なお、市費は全学年に関わる音楽授業の備品の購入、後援会費は楽器のメンテナンスで支出する予定である。

(質問 4) 今回購入する楽器の申請理由を聞きたい。

(回答) チューバについては老朽化が激しくなっているため、ランニングコストが非常に大きくなっている。次にドラムセットについては、現在の演奏形態は静止演奏であるが、所有している打楽器は動きや振り付けのある演奏に適したものであり、停止演奏にはやや不向きである。また、より幅広いジャンルの曲を演奏する上でも、ドラムセットは必要と考えているため購入を希望している。次にトランペットについても、チューバと同様に老朽化しており、メンテナンスを繰り返している状況である。業者からは廃棄を勧められることもあり、新しいものに切り換えていこうと考え購入を希望している。ただ単に古いから購入するのではない。新しいものを使用することで、演奏の全体の向上、音質の向上も見込まれると考えている。

(質問 5) 今後の楽器購入の予定を聞きたい。

(回答) 現有する楽器については、メンテナンス業者に診断してもらい、老朽化や状況が芳しくない楽器に優先順位をつけ購入を進めている。今後、トロンボーン 3 本、アルトホルン 4 本、ユーフォニウム 2 台について計画を立てながら購入していく予定である。静止演奏に変わったことにより、打楽器も新規購入を進めていく。演奏する曲も勘案しながら、バスドラム、ティンパニー、鉄琴等について検討している。

【太田会長】

回答について、または関連質問等がある委員の発言を求める。

【田中副会長】

2 点質問する。まず 1 点目、共通質問①の新型コロナウイルス感染症の影響でイベントが中止となった代わりに、校内演奏フェスティバルでの演奏を行うということだと思っただけだが、これまでであれば地域にもオープンになっている演奏会であったものが、校内となると規模が異なってくると思う。その点をどのように考えているか。次に質問 3 についてである。後援会費は楽器のメンテナンスに使用したいとの話があったが、楽器メンテナンスの費用は、大体どの程度かかるものなのか教えてほしい。

【春-15 提案者】

1 点目についてである。新型コロナウイルス感染症の第 2 波・第 3 波を考えると、今のところ先行きは不透明である。そのため、今年度は校内での演奏にとどまってしまう可能性が高い。2 点目のメンテナンスにかかる費用については、春の段階ですでに 13 万円ほどのメンテナンス費用がかかっている。その中で最も高額であるのが

チューバで約4万円である。そのほかトランペットもメンテナンスに結構な費用がかかっている。

【太田会長】

他に関連質問はあるか。

【鷺澤委員】

冒頭に、春日小学校の音楽交流活動は学校行事であると明言された。学校行事の場合、基本的には市の教育予算で負担して補充していくことがベースであると思う。だが、おそらく市の予算が足りないのだと思う。春日小学校としても、市に楽器購入の要請をしていると思うのだが、市の回答について、どのような状況であるか教えてほしい。

【春-15 提案者】

現在、市へは楽器購入についての要請は提出していない。春日小学校は人数的にも非常に多く、楽器の台数も多いためなかなか厳しいところがあるように思う。昨年度、一昨年度も市費等での楽器購入はない。

【鷺澤委員】

同内容について質問である。基本的に市の教育予算にて学校行事を負担していく。市より配当があるか否かは別として、学校として市に要請し、その結果に基づいて地域活動支援事業に提案することが順番だと思う。去年は、市からの予算が少ないため補助金にて購入したいとの話であったと思う。実際、自分も文化会館に演奏を聴きに行った。しかし今年度は、市に楽器購入を要請していないとの説明があった。これについて理由を教えてほしい。

【春-15 提案者】

市の予算は、通常の音楽の授業に用いる楽器について要望している。だが今回要望している楽器については、通常の音楽の授業では使用しない楽器であるため要請していないと認識している。

【鷺澤委員】

状況は理解した。

【太田会長】

他に質問はあるか。

【山田委員】

今ほど、市には要請していないとの話があったが、提案書 2 ページ記載の過去のデータを見ると「トランペット：市費 30 台」「アルトホルン：市費 18 台」、その他にも市費で購入した楽器と台数が記載されている。これはどういうことなのか。

【春-15 提案者】

提案書記載の市費購入分の楽器は、最近購入した楽器ではないと認識している。

【山田委員】

過去に市費で購入した実績があるため、理由を確認している。

【春-15 提案者】

申し訳ないが、自分の勉強不足である。だが、昨年度は市に要望は出していない状況であることを伝えるに留める。

【山田委員】

同様に市に要望してはどうか。

【太田会長】

今ほどの質問にあった市費での購入楽器についてである。おそらくではあるが、現在、上越市内には五十数校の小学校があるが、各学校を設立する際に購入しているものだと思う。今ほどの山田委員の発言のように、市費で購入した実績があるため、改めて要望してはどうかとの発言は質問ではなく、意見となるため控えてほしい。これについては、改めて小学校側で調べて、後日回答を得てはどうか。

【鷺澤委員】

回答を会長がすることはおかしいと思う。提案者が回答せねばならない。

【太田会長】

小学校側で調べて、改めて回答願う。他に質問はあるか。

(発言なし)

以上で、春-15 を終了する。

－ 提案者退席、次の提案者入場 －

【春-16 提案者】

- ・「春-16 小学生の音楽による地域の絆づくり支援事業」についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

(質問 1：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問①) 今年度

の提案書に記載する事業内容に、どのような影響があるか。実施の可否や中止が決定している事業等について聞きたい。

(回答) 残念ながら、いきいき春日野コンサート・謙信公祭・管楽器フェスティバルの3つが中止となってしまった。新型コロナウイルス感染症が収束すれば、上越教育大学吹奏楽団の大学生との交流は2学期や3学期に実施する予定である。また運動会を10月に変更し、学区民の前でのマーチング披露を予定している。その他、あまりに発表の機会がなくなってしまったため校内での発表の機会を設けて、フリー参観日として学区の住民を招待したいと思っている。

(質問 2: 新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問②) 「収入額」及び「支出額」について、費目ごとの見通しを具体的に聞きたい。

(回答) 支出・収入への影響はなく、変更はない。今年度、購入を検討している楽器については、3月より4年生が音楽部に入ってくるため、いくつかのコンサートが中止になったとしても、楽器は必要であるため要求を続けたいと思っている。

(質問 3) 部費、後援会費、地域活動支援事業費での楽器の購入状況を聞きたい。

(回答) 高志小学校では自分が知っている限りでは、管楽器の購入については、地域活動支援事業費でのみ購入している状況である。市費、市の会計は音楽の授業に使用できる楽器とのしぼりがある。音楽の授業の中では、トランペットやトロンボーンを使用することはないため、市の備品として購入することはできない。昔は多分できたかと思う。一方 PTA 会費、後援会費については、当学校は大変恵まれており、昨年度は PTA 会費 22 万円、後援会費 20 万円をいただいている。ところが、修理費のみで約 20 万円を使用している。その他、不足していた譜面台や消耗品、楽器の会場運搬費、指導者謝礼、クリーニング代等の必要経費がかかる。結局、昨年度は PTA 会費と後援会費で購入できた楽器は、シンバル 1 台 2 万円のみであった。なぜそれほどの修理費がかかるかということ、現在、60 本の管楽器がある。年 1 度の修理見積もりでは、大体 30 万円ほどの修理見積もりが出てくる。その中で優先順位をつけ、ようやく 20 万円分の修理を行っている状態である。もし修理をせずに新しい楽器を購入してしまうと、古い楽器がどんどん故障を起こしてしまう。自動車の修理を考えていただければ分かると思う。中古になるほどに修理代がかさむ。そのため、定期的な補充をしていきたいと思っている。

(質問 4) 今回購入する楽器の申請理由を聞きたい。

(回答) 今回購入する申請理由についても、質問 3 と同様である。さらに当校の課外活動は希望参加であるため、来年度新しく入る 4 年生の人数が増えることが考えられる。理由としてミニバスケットボール大会がなくなり、体育部の活動が陸上大会のみとなったため、もしかすると今年よりも多くの 4 年生が音楽部に流れ込んでくることが考えられる。その場合、楽器が足りなくなってしまう。

(質問 5) 今後の楽器購入の予定を聞きたい。

(回答) 今後も地域活動支援事業費で楽器を購入しながら、PTA 会費や後援会費はメンテナンスや必要経費に使用していきたいと考えている。もし補助金が採択されない場合には、今後どうするのかを校内で相談していきたいと思う。補足である。高志小学校の特色の一つとして上越教育大学の学生との交流がある。大学生から教えてもらい、一緒にいきいき春日野コンサートで発表することが子どもたちにとって、またとないキャリア教育の場になっている。よく大人の様子を見て憧れを持つと言うが、自分より 10 歳大きいだけの大学生と触れ合うことが何よりも子どもたちの励みになっている。さらに希望制の部活動であることにより、習い事ができない子どもでも無料で校内にてこんなにすてきな活動ができるため、ぜひ、高志小学校音楽部への支援を願いたい。

【太田会長】

回答について、または関連質問等がある委員の発言を求める。

(発言なし)

以上で、春-16 を終了する。

－ 提案者退席、次の提案者入場 －

【春-18 提案者】

- ・「春-18 春日野デュークス幼年野球育成事業」についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

(質問 1：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問①) 今年度の提案書に記載する事業内容に、どのような影響があるか。実施の可否や中止が決定している事業等について聞きたい。

(回答) 上越市の幼年野球活動は現在、大会が中止となっている。ただ、今後は大会の開催について精査し運営すると市幼年野球連盟より連絡が入っているため、大会が行われると思う。今回の申請は備品の購入関係であり、先週より練習も再開している。

また7月からは練習試合も組んでよいと言われているため、ほぼ通常通りの練習体制に戻る。そのため、春日野デュークスの活動自体は例年どおりであり、通常どおりの申請とした。影響は、現状ではほぼない。

(質問2: 新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問②) 「収入額」及び「支出額」について、費目ごとの見通しを具体的に聞きたい。

(回答) 備品購入が中心であり、実施しないものはない。

(質問3) 部費について聞きたい。

(回答) 春日野デュークスの部費は、年額1万5,000円徴収している。

(質問4) 部費を含めた会の収支決算を聞きたい。

(回答) 部費の中から支払っているものとして、各種大会の登録料と参加費が年額7万3,000円。そのほか、練習試合等を運営するに当たりラインを引くための石灰代や、ピッチャーが使用するロージンバック等で5万円。また、春日小学校をサッカー、バスケットボールと共通で使用しているため、使用できない日は有料の施設を利用している。そのための施設利用料で8万円、その他スポーツ保険で3万8,000円、春日野デュークス親の会の行事費であるバーベキュー、キャンプ、6年生の送別会等で6万円。また、春日野デュークス親の会からの捻出で、熱中症対策の飲み物、薬、コールドスプレー等で6万円。主なものとしては、以上のようなものに使用している。

(質問5) スパイク、シャツ等、個人負担とできない理由を聞きたい。

(回答) スパイクに関しては高額であり、また小学生はすぐに足が大きくなって履けなくなってしまう。保護者より購入してもらっていたが、なかなかスパイクまで買えない家庭には、先輩が履けなくなったスパイクを後輩に回し運営してきた。この度連盟より、スパイクの色を統一しなくてよいとの通達があった。当チームでは現在、黒のスパイクを使用しているが、熱中症対策として白がよいとのことであり、黒から白への変更を検討している。だが、保護者にすべて買い替えてほしいとは正直言いにくい。補助金によりスパイクをまずは一式購入できれば、次の世代の子どもたちには先輩のお下がりが回せると考えている。次に、シャツについては、大人の指導者用の購入を希望している。理由としては、指導者は全員ボランティアで監督、コーチをしている。現在は、ユニフォームや個人で使用する道具等を自己負担で用意してもらっているため、チームで統一した指導者用のシャツを用意したほうがよいと考えた。購入にあたっては、チーム負担ではなく、補助金が活用できればと思い提案した。

【太田会長】

回答について、または関連質問等がある委員の発言を求める。

(発言なし)

以上で、春-18 を終了する。

【春-19 提案者】

- ・「春-19 春日野少年野球育成事業」についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

(質問 1：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問①) 今年度の提案書に記載する事業内容に、どのような影響があるか。実施の可否や中止が決定している事業等について聞きたい。

(回答) 今年度の J カップは、まだ開催されるか最終的な決定はされていない。だが、今回改めてチームを立ち上げるということで、次年度を見据え引き続き活動していきたいと思っている。

(質問 2：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問②) 「収入額」及び「支出額」について、費目ごとの見通しを具体的に聞きたい。

(回答) 事業内容についても、備品購入関係が主であり変更はない。

(質問 3) ユニフォームは本来個人のものであり、個人負担が原則ではないかと考えるが、補助対象とする理由を聞きたい。また構成委員 18 名、選手名簿 14 名に対し 23 名分を要望する理由を聞きたい。

(回答) 大会に向けてのユニフォームであり、チームで一度揃えたいと思っている。それを後輩に引き継いでいくかたちで運営していきたいと思っている。また、枚数については、現在メンバーは 14 人のみではあるが大会までに増やす予定である。また大会は最大 20 人まで登録できるため、選手 20 人分プラス監督・コーチ 3 人分として申請している。

(質問 4) 活動内容や歴史を考えると、要望用具等が高級かつ高額である。詳細な購入の理由を聞きたい。また、中学校に部活動があるのに健全育成を目的とした事業の教育的必要性の理由を聞きたい。

(回答) 改めてチームを立ち上げたばかりであり、現在は大会に出るためのキャッチャー道具やヘルメット等を他チームより借りている状態である。そのため、今回必要な道具を揃えたいと考えている。初めて揃えることもあり、少し高額になってし

まった。

(質問5) 平成16年設立とあるが、部費の徴収、会計収支、活動内容はどのような状況か。また、十数年間の活動の詳細な総括内容を聞きたい。

(回答) 質問4と回答が重なるのだが、活動はJカップに向けて毎年選手を召集し、大会後は解散していたため、部費は徴収せず活動していた。そのため、参加費や道具も参加者で均等な額を負担し運営してきた。また、中学校の部活動終了後は、指導に携わってもらうこともある。

(質問6) 代表者が「春-18 春日野デュークス幼年野球育成事業」と同一で、活動も同一場所である。要望金額も多額で、両事業の支援要望額の合計は200万円を超える金額になっているが、両者の関係性や役員名、選手名等の詳細な説明を聞きたい。

(回答) 当事業はJカップに向けての活動であるため、春日野デュークスの代表をしている自分がそのまま代表を務め、監督やコーチも中学校の保護者をお願いしている。そのため代表を務める自分以外は、春-18と重複している人はおらず、別の団体として活動している。また練習会場については幼年野球と同様に春日小学校を利用しているが、1日借りて午前と午後のすみ分けをして利用している。

【太田会長】

回答について、または関連質問等がある委員の発言を求める。

【本多委員】

今ほどの説明だと年間での活動は、Jカップの大会1回のみということか。Jカップは上越市の大会であるが、例えば他地区との大会等があれば教えてほしい。

【春-19 提案者】

実際、地区の大会がJカップぐらいしかない。メンバーは中学校の野球部にかなりの人数が所属しているため、普段は中学校の野球部活動をしている。Jカップでは、昔一緒に活動していたが、中学校が別々で、それぞれに活動している子たちが、その時だけ集まり活動している。Jカップを目指し、練習や練習試合を行い、その時のみの活動となっている。

【太田会長】

1つ確認である。質問4の「また、中学校に部活動があるのに健全育成を目的とした事業の教育的必要性の理由を聞きたい」についての回答がなかったように思うため回答願う。

【春-19 提案者】

中学校の部活動は、春日小学校や高志小学校の卒業生のほか、直江津南小学校など春日区以外の小学校の児童であった生徒も一緒に活動している。だが、春日野少年野球の団体では、春日小学校の卒業生のみの活動になる。当事業は春日中学校の部活動に所属している春日小学校出身者や、他の中学校に通って活動している春日小学校出身者、また中学校から野球を始めた春日小学校出身者も対象である。中学校の野球部での活動を離れ、普段とは全く違うメンバーで活動を行っている。そのメンバーは、後輩である春日野デュークスの指導も行う。こういった組織はなかなかないと思う。中学校に行ってもこういった活動はなかなかできないと思うため、とても有意義だと考えている。今後も続けていきたいと思っている。

【太田会長】

他に質問はあるか。

【吉田 義昭委員】

質問 4 についてである。大会としては、8 月に企画されているメインの大会が 1 つである。自分も幼年野球に関与した経験があるのだが、提案の中のピッチングマシン購入については、1 回の大会のためにマシンを用意しなければならないのか疑問に感じる。提案者としては、春日野デュークスでも使用したり他の団体に貸し出す等、春日区内でマシンを有効に利用できるような考えはあるのか。1 つの試合のために購入する理由を教えてほしい。

【春-19 提案者】

高額なことは当然承知している。なぜ提案したのかというと、他チームが裕福なのか寄付なのかは不明であるが、マシンを所有しているとの情報を耳にした。これまでは中学校が所有しているマシンを借りて練習することもあったが、中学校の備品を学校以外の活動で借りることは難しいため、活動していく上でいつか揃えることができればとの意味で選んだ経緯がある。ただ、あれば充実できると思っている。

【太田会長】

他に質問はあるか。

【鷺澤委員】

質問 5 に関連した質問である。提案書に平成 16 年設立と明記されており、十数年間少年野球活動をしているわけだが、地域活動支援事業にて備品等を揃えなかった時

はどのような活動をしてきたのか。

【春-19 提案者】

平成 16 年設立と記載しているが、実際には 16 年からほぼ昨年までは J カップの際に出場できる子を招集し、練習して試合に出ていた。当然、道具も何もないため、春日中学校の物を借りて大会に出ていた。これが今までの活動のかたちである。活動としては、練習や大会前に練習試合等も組んでいたが、大会が終われば活動も終わりとなっていた。ユニフォームについても、春日と記載されているユニフォームを借りていたため、春日野少年野球のユニフォームではない物で参加していた。そのため、今回道具を揃えて活動もしっかりしたいと思い、初めて地域活動支援事業に提案した。

【鷺澤委員】

現在 14 人の選手が登録しており、大会では最大 20 人までの登録が可能との話だが、この人数はあくまでも見込みということでしょうか。また J カップについても今年度の開催は未定であるが、年間 1 試合のために予算要求し、選手に必要な備品として購入したいということか。

【春-19 提案者】

そのとおり。次年以降はその大会に向けて、しっかりと備品も管理しながら活動していきたいと思っている。

【太田会長】

他に質問はあるか。

【山田委員】

新しいサークルというか初めて作る団体ということか。

【春-19 提案者】

初めて作るということではなく、平成 16 年より活動はしていたのだが、ちゃんと始めるということである。

【山田委員】

質問 4 について、増えることを見越した 23 人分のユニフォーム等を個人負担にすることは考えていないのか。

【春-19 提案者】

基本的に部費は徴収しておらず、個人負担で活動している。例えば自分の物を揃える際も当然自己負担で購入しており、それ以外の物については集金して活動していた。

ボール等を購入する際には、部員の数で割って購入していた。それは現在も同様である。

【山田委員】

ユニフォームについては個人負担とはしないのか。

【春-19 提案者】

大会が1試合のみであるため、個人で購入するよりも1回部として揃え、毎年大会の時に配るかたちのほうがよいと考えている。

【太田会長】

他に質問はあるか。

(発言なし)

以上で、春-19を終了する。

－ 提案者退席、次の提案者入場 －

【春-20 提案者】

- ・「春-20 越後謙信きき酒マラソンオンライン事業」についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

(質問 1：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問①) 今年度の提案書に記載する事業内容に、どのような影響があるか。実施の可否や中止が決定している事業等について聞きたい。

(回答) 越後謙信きき酒マラソンは、今回で6回目となるはずであった。昨年度の第5回大会も地域活動支援事業にて補助してもらい非常に人気を博した。当初の提案では第6回越後謙信きき酒マラソン事業として提案したが、新型コロナウイルスの影響により、今年度は、越後謙信きき酒マラソンオンライン事業として、オンライン大会に企画を変更した。新型コロナウイルスによる影響で、県外からたくさんの方が集まるという状況を考慮してオンラインに変更し、実際には来てもらわないが、みんなでつながりながら走ろうという企画になっている。具体的にはオンラインでの会議等のツールであるZOOM(ズーム)などを使い、私たちが走りながら通信をして、向こうのランナーは自分の住んでいる地域で別に走ってもらう。通信しながら、春日山にいるような感じで走ってもらうという企画である。その際に、こちらのエイドステーションで出していたような食べ物などを事前に送付し、それを一緒に食べていくような私たちの企画をしている。参加者は100人くらい募集し、コースは電波のよい所を中心

に短めのコースで設定していこうと思っている。5 時間くらい強制的に一緒に走るかたちを考えている。今回はいつものかたちとは違うが、次回正式に実施できたときのために、次回もっと期待を持ってもらえるような仕掛け作りをしたいと考えている。今回実施したことによって、ランナーが、やっぱり春日山に行きたいとの気持ちになってくれると思っている。インターネット等で地域の人からも見てもらったり、声を聴いてもらうことによって、春日地域の人たちも自分たちにできることはないかという気持ちになってもらえれば、実施する価値はあると思っている。新型コロナウイルスの影響でやめるのではなく、何とか続けたいと考えている。

(質問 2：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問②) 「収入額」及び「支出額」について、費目ごとの見通しを具体的に聞きたい。

(回答) 収入支出については、今回は事業規模が縮小するため 50 万円ほど減額となる。会場費等がなくなるが、その分は、配信するための機材や物品の配送料に置き換えたいと思う。

(質問 3) 提案されている事業は、商工会議所青年部主催の全市的な事業であると考えている。春日区の地域活動支援事業費を活用して行う理由を聞きたい。

(回答) 全市的な事業として実施してはどうかとの話もあるが、主として春日山地域の振興を目的として行っているため、春日区の支援事業に提案をした。

【太田会長】

回答について、または関連質問等がある委員の発言を求める。

【田中副会長】

質問 3 に関してである。春日地区の地域活動支援事業は、春日地区の活性化のために予算を使うことが趣旨である。オンラインでの実施となると、趣旨がずれている部分があると思う。商工会議所青年部主催ということにおいて、春日地区の活性化との部分で、観光ではなくマラソンを実施することによってどのように地区が活性化していると思うか。

【春-20 提案者】

マラソンというものでくくって考えると話がずれてしまうように思うが、これまで春日山に来てくれなかった人や春日山を知らなかった人や興味がなかった人たちが、マラソンを実施することによって春日山に来る機会が生まれる。そういったかたちも増えてきている。当初の企画では、今回 600 人を募集することとしていたが、600 人

募集すれば 600 人の参加があると思うし、1,000 人であってもその人数の参加があると思っている。マラソンという方法を使って、春日山に来てもらうことを自分たちは実施している。このマラソンを行うことにより本丸まで登ってくれる人が 600 人になった。ただ単純なマラソン大会をしているわけではなく、参加する人がより楽しく、見ている人やボランティアや地域の人たちもより楽しめる設えをしている。自分たちは岩戸の前でずっと踊っていて、地域の人が扉を開けてくれることを待っている。皆さんがやる気になるよう、自分たちの住む春日山はよいところだと思ってもらえるような仕掛けを起こしているつもりである。春日山の活性化には十分につながっていると思っている。

【田中副会長】

それに関連して、参加者は保険等を個人負担として支払っていると思うため参加費用を教えてほしい。商工会議所青年部がどのぐらいの予算を割り当てているのか関連して教えてほしい。

【春-20 提案者】

通常、参加費は 5,000 円である。青年部の事業費は 30 万円を見ている。これは昨年ベースである。一部の VIP 参加者からは 1 万 2,000 円を徴収している。いろいろなものを付加していくとプラス料金となるが、基本的には 5,000 円となっており、保険等は参加費の中から賄っている状況である。

【太田会長】

他に質問はあるか。

【渡部委員】

イメージ的なことで恐縮であるが、きき酒マラソンはどこに重きを置いているのか。もう 1 点、素人的な発想ではあるが、走った後にお酒を飲むことは体に悪いイメージがあるが、このあたりについて考え等を教えてほしい。

【春-20 提案者】

ランネットというランナーがエントリーするためのインターネットサイトがある。このサイト上で 2019 年に出ている大会が 2,000 大会ほどあり、人気のある大会もあるが、あまり人が来てくれない大会もたくさんある。単純に「春日山マラソン」との名前で打ち出して人が来てくれるのかは疑問であり、名前や企画にインパクトが必要で、見てもらうための仕掛けが必要である。「春日山マラソン」とはせず、「きき酒

マラソン」の違和感により振り向いてもらおうとの仕掛けである。また、走った後にお酒を飲むことは体に悪いのではないかとの話があったが、基本的にランナーは酒好きが多いように思う。走った後に飲んでいる人も多く、ときには練習をしながら飲んでいる人もいる。いわゆる、ランナーとお酒は親和性が高いように思う。これはあくまでも、自分の勝手な思い込みであるが、参加者が喜んで来てくれる理由としてはそういうことだと思う。ランナーも走った後は楽しくお酒が飲みたいという気持ちになるようである。ついではあるが、せっかく日本酒が名物の上越であるため、地酒も堪能してもらいたいと思っている。1日走り、楽しく帰ってもらいたいとの思いで行っている。また、災害救援機構という救急車を所有している団体に協力してもらっており、もし万が一があった場合に備えてしっかりと考え、もちろん保険もかけて対応している。

【太田会長】

他に質問はあるか。

【吉田 義昭委員】

質問3についてである。春日山地区のPRをしているとのかたちはよいと思うのだが、地元の人たちが受け入れる側としてよく来てくれたと思えるようなかたちとしては、商工会議所青年部としてはどのような企画を考えているのか教えてほしい。

【春-20 提案者】

正直、今回のオンラインのかたちでは、なかなか地元の人たちに関わってもらうことは難しいと思っている。これまでの実績としてボランティアの数が増えてきており、昨年度はボランティアだけで100人ほどの参加があった。なぜボランティアが増えたかは、開催当初より来てくれた人や関わってくれた人にどのように楽しんでもらうかをずっと考えて行ってきたためだと思う。来てくれた人が他の人を呼び、どんどん増えてきているのだと思う。地域の人たち、例えば町内会長に趣旨を説明しており、地域住民に説明する機会を作ってほしいとの話もしている。ただ、それだけではなかなか地域住民は自分から来てはくれないため、自分たちも参加し楽しむことによって、あ楽しいことをしていると思ってもらえることを長く行っていき、それを皆さんが気づいてくれるのを待っている。当然働きかけも行うが、皆さんが楽しいと思って来てくれなければ、よりよいものにはならないと思っており、そういう仕掛けをずっと行っていきたいと思っている。徐々に気づいてくれる人が増えてきているように思う。

春日山きこの園や正善寺工房がその例で、それがランナーに伝わり、「地元の人が増えてきた」「沿道で応援してくれる人が増えてきた」「温かい大会だ」と毎回言ってくれる参加者もいる。その繰り返しだと思っている。ランナーの声は非常にありがたく、それを直接受けると自分たちももう1回やろうというふうに思える。これを地域の人たちにも聞いてもらいたいと思っている。

【太田会長】

他に質問はあるか。

【鷺澤委員】

説明を聞いていて、楽しそうだということは分かった。だが、例えば地域の活性化に結びつけて考えた場合、地域の人たちや団体と連携し、支援を受けながら実施していくことが必要だと思う。地域の団体との連携をどのように考えているのか教えてほしい。また地域活動支援事業費にてほとんどの運営費を賄っているように思う。直近の会計収支決算で見ると、470万円の収入に対して200万円程度の残金がある。商工会議所青年部が中心となり、地域と連携して発展して行く中で不足分を地域活動支援事業費で賄うのであれば理解できる。これらについて考えを教えてほしい。

【春-20 提案者】

地域の団体については、現在、一義会等に声掛けを行っている。ただ、自分たちもそんなに地域の団体を把握できていないわけではないため、逆にこういったかたちでPRをして、お願いしたいところである。もし、声掛けが足りないということであれば、どこにでも出向きたいと思っている。一緒にやっていただけるのであれば、それは本当にありがたいことであるため、ぜひ進めたいと思う。次に費用については、青年部全体の予算で話をされているかもしれないが、もともと4部に分かれており、総務・商業・工業・地域とあり、大体の予算はこの4部が使用している。きき酒マラソンのためにこれらの予算から30万円を無理やり捻出している状況であり、今まで赤字で行ってきた。何とか何とか実施してきたが、逆にいうと参加費を値上げしなければ事業が実施できないということになる。予算もなく、参加者の負担にならないようにとの思いから、地域活動支援事業の支援をいただけないかという思いである。

【太田会長】

他に質問はあるか。

【山田委員】

雨天の場合は実施されるのか。

【春-20 提案者】

実際に、第1回・2回・3回とずっと雨が降っていた。特に第3回は暴風雨であり、テントも吹き飛ばされて大変であったが、もともと真面目なマラソンではないため、雨が降ってきてもそれはそれでランナーは楽しんで参加しているようである。天候すらも味方につけながら楽しく行っていきたいと思っている。また、それも思い出にしてもらいたいと思っている。

【谷委員】

実は昨年、偶然通りかかった時にこのマラソン大会を見た。カラフルな衣装の人がたくさん走っており、1時間半ほど見ていた。こんなイベントがあったことを知らなかった。春日山の入り口をコースに設定しており、その麓を元気にする、素晴らしいイベントだと思って見ていた。地域がもう少し連携できたり、地域で盛り上げるようなことも必要だと感じた。これからも頑張っていたきたいと思う。

【春-20 提案者】

当初提案にうまい棒購入の予算が入っていた。うまい棒を住民に配布し、ランナーが前を通った時に応援の意味でランナーに渡す企画を考えていた。しかし今回はリモートによる開催となったため、それができない。だが来年、また企画をしたいと考えている。

【太田会長】

他に質問はあるか。

(発言なし)

以上で、春-20を終了する。

— 提案者退席、次の提案者入場 —

【春-21 提案者】

- ・「春-21 上杉謙信公とその聖地・春日山の魅力を今あらためて知る事業」について
プレゼンテーション
- ・個別質問への回答

(質問 1：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問①) 今年度の提案書に記載する事業内容に、どのような影響があるか。実施の可否や中止が決定している事業等について聞きたい。

(回答) 当事業に延期や影響はほぼない。だが座談会の際に、密にならぬようリモートや屋外での開催の可能性もある。今年は、大切な一大イベントである謙信公祭の武者行列が中止となってしまった。そのため何とかしてこの事業を実行し、謙信公離れを食い止めたいと思っている。

(質問 2: 新型コロナウイルス感染症の拡大による影響についての共通質問②) 「収入額」及び「支出額」について、費目ごとの見通しを具体的に聞きたい。

(回答) 影響はほぼないため、変更はない。

(質問 3) cocola 等のフリーペーパーの活用や宣伝効果、広告の利用、座談会等の開催で、どのように観光客の誘致や地域の活性化につながるか考えを聞きたい。

(回答) まずは地域の住民が上杉謙信公や春日山についてより深く知ることが、観光客誘致や地域活性化の出発点になると考えている。cocola は上越地域で 6 万 6,000 戸のポストに直接配布されており、地域の情報誌として気軽に読まれている媒体である。そのような親しみやすい媒体を使用し、座談会という読みやすい形式で表現することにより、普段、地元の歴史にあまり興味のない人にまで幅広く伝えられると考えている。そして、それを読んだ人がふるさとの価値を再発見し、春日山を訪れたり、遠方の友人を招いたりするような行動につながっていくと考えている。

(質問 4) 「地元住民の意識改革と誇りの醸成が重要」とはどのようなことか。

(回答) 難しい言葉を使用してしまったが、噛み砕いた言い方をすると「愛着なくして定着なし」ということである。この事業によって、地域の人が上杉謙信の魅力をしっかりと再認識する機会にしたいと思っている。

【太田会長】

回答について、または関連質問等がある委員の発言を求める。

【田中副会長】

質問 3 についてである。提案書の収支計画を見ると、支出の部で cocola 掲載料が 27 万 5,000 円とあるが、料金の中にはポスティングの料金も含まれているのか。

【春-21 提案者】

含まれている。

【田中副会長】

見開き一面の記事がポスティング費用まで負担しなければならない理由を教えてください。見開き一面の記事の下部には広告が掲載されるため広告料もあると思う。それ

にもかかわらず、ポスティング費用まで掲載料に含まれているのはなぜか。

【春-21 提案者】

自分の説明や提案書の表現の仕方が分かりにくかったように思う。本来、cocolaに見開きのページを掲載する場合、60万円ほどの掲載料がかかる。通常、デザイン費・営業費・印刷費・ポスティング費全てを含めて紙面半分で30万円と金額が決まっている。つまり、本来であれば当事業にて掲載しようとしている見開き一面の掲載には60万円かかる。だが、今回掲載を予定しているのは「大人の自由研究」という地域貢献度の高いコーナーである。そのコーナーへの掲載であれば下部に広告は掲載されるが、上部は自由に使えて税別で25万円ほどの安価で掲載することができるというものである。これは本当に安価であるため、使わない手はないと思い今回の提案となった。

【太田会長】

他に質問はあるか。

(発言なし)

以上で、春-21を終了する。

— 提案者退席 —

【藤井係長】

プレゼンテーションを予定していた「春-22 にぎわいのあるまちづくり（春日地区の歴史と文化に触れ合う）事業」の提案団体が会場に来ていない。本日は時間の関係もあるため、この事業については文書での回答としたいと思う。確認を願う。

【太田会長】

確認する。「春-22 にぎわいのあるまちづくり（春日地区の歴史文化に触れ合う）事業」の春日商工振興会の提案についてである。予定どおりにプレゼンテーションは進行しているのだが、まだ会場に来ていない。質問事項が7項目あるが文書での回答としてよいか。

(よしの声)

それでは「春-22」への質問事項については、文書での回答とする。

以上で次第3 議題「(1) 協議事項」の「① 地域活動支援事業の審査に係るプレゼンテーションについて」の「2) プレゼンテーション」を終了する。

次に次第3 議題「(2) その他」について事務局より説明を求める。

【藤井係長】

- ・今後の審査の流れについて説明

【太田会長】

今ほどの説明に質疑を求める。

(発言なし)

以上で「(2) その他」を終了する。

次に次第4「その他」の「次回開催日の確認」に入る。事務局に説明を求める。

【藤井係長】

- ・次回の地域協議会について説明

【太田会長】

－ 日程調整 －

- ・次回の協議会：7月1日（水）午後6時30分から 市民プラザ 第1会議室
- ・内容：地域活動支援事業の審査に係る意見交換

「(2) その他」で何かあるか。

【渡部委員】

初めての審査であるため確認したい。地域活動支援事業の配分額に残額が出た場合はどうなるのか。残金として返却するのか、それとも2次募集のようなことをするのか。

【藤井係長】

今年度の地域活動支援事業の春日区の配分額は1,050万円である。仮に残額が発生した場合には追加募集を実施するか否かについて、改めて協議することになる。

【渡部委員】

残額が発生した場合には、市に返却するということか。

【藤井係長】

もともと市の予算ではあるが、執行しない予算として取り扱うことになる。

【渡部委員】

地域の町内会等に配分するということはないのか。

【藤井係長】

地域に分配するということはない。審査によって、残額がある場合は追加募集を検討することになる。なお、追加募集の検討については、次々回の地域協議会で行う。

【渡部委員】

あくまでも自分の予想であるが、今年度は提案事業の取下げや変更が多い。そのため、残額が出るのが予想される。また今回提案のあった団体以外にも、提案したい団体は多くあると思う。追加募集を実施するか否かを検討する際に、重要な判断が求められると思う。残額を全て返却するのであれば、地域の団体に補助したい。

【太田会長】

今回の当初募集の地域活動支援事業の審査終了後に、状況を見て追加募集するか否かを地域協議会にて検討したいと思う。他に質問や意見等あるか。特に、今期より協議会委員になった委員で確認したいこと等あれば発言願う。

【石田委員】

今ほどの渡部委員の発言と重複するが、自分も今回初参加であり、協議会のあり方についてじっくりと聞いていた。素朴な疑問なのだが、現在、新潟県も財政が非常に厳しい状況である。県議会議員や幹部の給料が減額されている。上越市も財政が豊かとは言えないと思う。今年度の春日区の地域活動支援事業の配分額は1,050万円だが、毎年同様に実施し、予算を執行しているのか。

【太田会長】

事務局より回答願う。

【藤井係長】

予算は毎年市議会に諮られるものであるため、先のことは答えられないが、これまでの経過を見ると全市で1億8,000万円を人口割と均等割により、春日区には1,000万円ほどの配分額で推移してきている。昨年度についても、基本的には満額にて採択している。実際には、事業の実施の段階で実施できなかつたり、不要となることもある。区によっては、配分額を残して終了している区もある。逆に残額が少なくとも追加募集を実施している区もある。それは区ごとの地域協議会の考え方次第である。

【石田委員】

今年度については新型コロナウイルス感染症の影響により、事業が実施できない団体もある。今までの状況からすれば、予算が減額されても仕方がないと思い中止している事業も多いと思う。そういったことを考えると予算をすべて使わずに残すといった考えはないのか。やはり枠の中ですべて配るとの考えなのか。地域活動支援事業の予算は、市民の税金である。あるからすべて使うのではなく、状況を踏まえてその時

必要な事業のために充てるといった考えがないのか教えてほしい。

【藤井係長】

市としては、全額執行しなければならないといったことは考えていない。地域の活性化や課題解決に役に立つような活動を支援したいとの事業であるため、採択額が必ず1,050万円である必要はないと思っている。今年度の状況も踏まえて、追加募集を実施することも、しないことも可能である。区によって判断は異なると思う。繰り返すにはなるが、必ずしも1,050万円を使い切ることが本意ではない。

【太田会長】

補足である。自分は前期4年間も地域協議会委員であった。その4年間も毎年1,000万円ほどの予算が春日区についていた。毎年いろいろな提案事業があり、それを採択し残額が出た年もあった。1,000万円を使い切るのではなく、委員の中で採決を取って残額を市に返納した年度も春日区であったことは事実である。

他に質問等あるか。

(発言なし)

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。